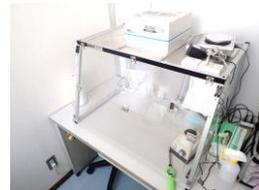


異物検査の動向



写真：分析機器と小型クリーンベンチ

弊社では製品などに混入した異物の検査サービスを行っています。今回は弊社に検査のご依頼を頂いた異物の傾向について、お話しします。

2020年に弊社にご依頼いただいた異物検査のうち、半数以上が非生物由来で、生物由来物（虫・カビ・植物片・毛髪など）よりも多い結果でした。

非生物由来の異物では、ポリプロピレンやポリエチレンが多く見られました。これらは透明度の高いものが多く、製造～消費者までの間で身近に存在するものであるため、一部が切れるなどして混入しやすい素材です。また、虫ではアリ（ハネアリが短期間で大量に発生）・ゴキブリ（食品などに誘引されやすい）・シバンムシ（工場や家庭で発生しやすい）が多く見られました。春～秋にかけては虫の活動が活発になるため、混入事例が多くなります。

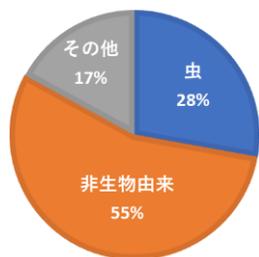
異物が何なのか、いつどこで、どのように混入したのかを推定することで、異物混入クレームに対する説明や、再発防止対策の立案がしやすくなり、今後の衛生管理にも役立ちます。

弊社では異物検査のみではなく、検査結果に基づいた防虫や衛生面でのアドバイスも致しますので、お気軽にご相談下さい。

表：分類別 異物検査数ランキング(2020年)

	非生物由来*	虫（科別）
1位	ポリプロピレン	アリ科
2位	ポリエチレン	ゴキブリ科
3位	アルキッド塗料	シバンムシ科
4位	鉄（サビなど）	ユスリカ科
5位	アルミニウム	ゴミムシダマシ科

*澱粉・タンパク質・油脂など食品由来物を除く

図：弊社での異物検査内訳
(2019年～2020年)

随時開催、受付中!!



オンラインセミナー

HACCPのツボ



今月の

豆知識

宇宙食の豆知識



人類初の有人宇宙飛行から約60年が過ぎました。今秋には民間人だけでの宇宙旅行が計画されており、宇宙旅行が身近なものになりつつあるのを感じます。

宇宙旅行といえば、福井県の高校生たちが宇宙食のサバ缶を開発し、宇宙飛行士の野口聡一さんが食べたことで話題となりました。宇宙食の条件には、衛生面での安全、軽量（なんと1kgで約100万円の輸送コスト）、長期保存が可能などといった多くの項目があるため、開発は容易ではありません。最初の宇宙食は「宇宙で固形物は喉に詰まるのでは？」と

いった疑問から、ペースト状で味も見た目も良くなかったそうです。その後、固形食が問題ないことが分かり、乾燥食品やフリーズドライ食品に変わり、味・見た目はずいぶん改善されました。最近では、通常の食品を中身が飛び散りにくいように加工したものや、果物など生鮮食品が増えてきたそうです。

現在、日本発の宇宙食は47品目に上り、中にはラーメンや羊羹、醤油など幅広い品目があります。私達が宇宙旅行をする頃には「日本食が恋しい。」なんて思いはしなくて済むかもしれませんね。